

主催者挨拶

信者の人権を守る二世の会 代表 小嶋希晶

皆さん、こんにちは。先ほどご紹介に預かりました小嶋希晶と申します。本日はお忙しい中、ご足労いただきありがとうございます。初めてシンポジウムを行ったのが4月24日のことでした。今回、3回目のシンポジウムができるのも、ここにいらっしゃる良識ある先生方をはじめ、家庭連合の教会員の方々やたくさんの方々支援して関心を寄せてくださったおかげだと思っております。心から感謝申し上げます。

安倍元首相の銃撃事件から1年が経ちましたが、私としてはなかなか長い1年でありました。どうすれば現役信者の声が届くのか、絶望の中にいたわけですけど、私たち家庭連合の信徒すら、顔を出し、名前を出しながら、家庭連合であると訴えることが難しい。そのような中であるにもかかわらず、このようにしての外部の先生方が、宗教迫害だ、魔女狩りだとおっしゃいながら、私たちのためにサポートしてくださることがどれだけありがたいかわかりません。私たちの声を聞いてもらえない中でも、お一方、お一方、耳を傾けてくださる方々が増えて、この携えておられる信念をもとに、一緒に訴えてくださる先生方に心から感謝しています。

私たちが今回3回目のシンポジウムを行おうと、どなたか出てくださらないかということで、先生方に話をお願いしている中で、悲しいことに韓鶴子総裁の発言が世の中に出回ってしましまして、私たち家庭連合2世としては、やはり日本を愛することをすごく大切に教えてきた立場としては、この韓鶴子総裁の言葉をもとに、反日だと批判されることがとても悲しく辛く、お願いしていた先生方は保守の論客として有名な方々でありましたので、やはりこういう家庭連合は反日だと言われる、このような批判を聞きながら、私たちと共にシンポジウムしてくださることは難しいんじゃないだろうか、半ば諦めながら、断られるだろうと覚悟しながらメールを送ったこともありました。ただ、私たち二世に寄り添いたいと、苦言もなくですね、こうして出てくださったことを心から感謝しております。

今回、国際歴史論戦研究所の杉原会長が来られて、歴史のみならず、宗教や政治や法律などに深い知見をお持ちで様々なアドバイスをくださいました。また、いつも1回目から2回目、3回目と、主催者かのような、主催側かのようにいつもアドバイスして下さり毎回出てくださる徳永先生、今回初めて出てくださる中山弁護士と、誰よりも、なんなら信者よりも熱い思いを持ってですね、真実を伝えたいと、いつも汗して下さり、毎回二世

の会に支援して募金もしてくださる福田ますみさんと、4名の先生方が今回お越しくさ
いました。

私なんかは何もない立場ですが、先生方からすれば、今まで積み上げてきたキャリアだっ
たり名声を全て投げ出すような覚悟でなければ、こういう家庭連合の、悪評の広まってし
まった家庭連合の肩を持つことは難しいんだろうなと思いつつ、本当にありがたい気持
ちで今いるんですけども。肩を持つと言いましたけど、私たち、このシンポジウムは教会
の擁護のために結成されたわけではなく、先生方のこの内部には気づけない、内部には分
からないこの視点を有識者の先生方から共に共有しながら学んでいき、家庭連合がより発
展できるようにと主催しているシンポジウムです。なので、私たちが発言するその一言一
言は教団を代弁した内容ではなく、あくまで二世の個人としての発言だということをご了
承いただきたいと思います。今、隠れてるんですけど、この二世代表ってなんか全部書い
てあって、二世代表ではないので、教会離れた二世にも怒られてしまうんですけど、代表
ではなく個人として議論を交わしていきたいなと思っています。今日のテーマは解散請求
についてということですが、今から有識者の先生の講義、講話を聞きながら、また二世の
率直な意見の交流の場としていきますので、皆さん、どうかこのシンポジウムの内容を聞
いて、解散請求について冷静な判断ができるように、このような機会になることを願いな
がら挨拶とさせていただきます。よろしくお願いいたします。